

2006年6月1日

17:30~19:00

前原暫定集会施設A会議室

第1回・(仮称) 小金井市文化芸術振興条例策定会議

[議事録]

次第

- 1 委嘱状交付
- 2 市長挨拶
- 3 委員自己紹介
- 4 正副委員長互選
- 5 協議
- 6 今後の予定
- 7 その他(事務手続き等について)

[条例策定委員]

- | | |
|------------------------------|-----|
| ・ 田中敬文委員(東京学芸大学助教授) | =出席 |
| ・ 林望委員(作家) | =欠席 |
| ・ 久保田美穂委員(NPO法人プレイス) | =欠席 |
| ・ 内藤治誠委員(小金井市悠友クラブ連合会) | =出席 |
| ・ 岩尾治子委員(NPO法人Passo a passo) | =出席 |
| ・ 星野正行委員(小金井市青少年健全育成6地区連合会) | =出席 |
| ・ 水野恵美子委員(一般公募) | =出席 |
| ・ 高橋金一委員(一般公募) | =出席 |
| ・ 宮下要委員(一般公募) | =出席 |

[事務局]

- ・ 小金井市長 稲葉孝彦
- ・ 市民部長 上原秀則
- ・ 市民部市民文化課長 小柳清
- ・ 市民部市民文化課文化交流係長 鈴木雅子
- ・ 市民部市民文化課文化交流係主任 山田耕太郎
- ・ 市民部市民文化課文化交流係主事 早坂嘉人

[協力]

- ・ 東京大学大学院人文社会系研究科・小林真理助教授

小柳文化課長

第1回（仮称）小金井市文化芸術振興条例策定委員会を開催します。
委員長が決まるまで、暫定的に私が司会をつとめさせていただきます。

委員の紹介。

事務局の紹介。

協力研究機関の紹介。

撮影録音の承認を委員に求める→承認。

1 委嘱状交付

2 市長挨拶

小金井市長・稲葉孝彦

この度は、（仮称）小金井市文化芸術振興条例策定委員をお引き受けいただきましてありがとうございます。

ご存知のように小金井市では、本年4月に文化芸術の拠点となる中村研一記念小金井市立はげの森美術館が開館し、市の内外からの来館者をお迎えして現在、所蔵作品展として中村研一作品を鑑賞していただいております。

また武蔵小金井駅南口駅前再開発の進行に伴い、平成20年度には公会堂に変わる大型文化施設として（仮称）市民交流センターを開館させるということで、いよいよ本市にも本格的な文化芸術の風が吹き始めました。

市民の皆様の文化に対する関心が高まりつつあるこの時期に、文化芸術振興条例を策定するという、まさに機が熟してきたという状況です。

是非市民の皆様の期待を反映させ、またより文化度の高い、芸術力の輝く条例が策定されますよう皆様にご尽力いただきたいと思います。

本日から来年3月までという短い期間に、今後の小金井市の文化芸術振興の指針となる条例の策定をするという、厳しいお願いではございますが、どうぞ熱心な討議をしていただけますよう、よろしく願いいたします。

3 委員自己紹介

田中委員

東京学芸大学教育学部の田中敬文と申します。実は私も小金井市民でして、小金井市でお手伝いできることをうれしく思っております。専門は経済学ということで、財政的な側面から、いろいろな市民活動ですとか NPO ですとか、今回の芸術文化に関する財政的側面について、ささやかなお手伝いをしたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

内藤委員

小金井市悠友クラブ連合会から推薦を受けました内藤でございます。悠友クラブって何だろうなっていう方も多いと思いますけど、簡単に言うと小金井市の老人会でございます、今回の策定委員会には縁遠いかもしれませんが、何とか皆さん方と一緒に頑張って勉強させていただければと思います。よろしくお願いします。

岩尾委員

岩尾治子と申します。「NPO 法人 Passo a Passo」と申します。どうぞよろしくお願いします。

星野委員

星野正行と申します。小金井市青少年健全育成6地区連合会というのがございまして、小金井は6地区に分かれて、これ学校とはちょっと違った区域になっているんですけど、いずれにしても6地区ありまして、各地区に大体40名程度の委員がおりまして、6地区ですから大体240名程度の委員がおります。そんなことで年間いろいろ、市民祭りのような行事も行っておりますし、学校等のあれとも連関がありますので、小金井は今音楽の方でも賞を取ったりして、なかなか活発な活動をしてるんです。できるだけ子供さんが少しでもいろいろなことができるように、お手伝いしたいと思いますので、よろしくお願いします。

水野委員

水野恵美子と申します。よろしくお願いします。私は何の経験もなく、主婦で応募させていただきました。二人の子供を育てる中、あと近所のお子さんを普段見て思うこと、そういうことが様々ありまして、文化とか芸術とか、本当に大事な、必要な条例がこれからの作られるということで、勉強させていただいて、単なる親としての立場から申し上げることができればいいな、と思って応募させていただきました。よろしくお願いします。

高橋委員

皆さんこんにちは、高橋金一と申します。職業は植木を生産している農家ですが、縁あって公会堂のラスト企画「ありがとう公会堂祭り」の実行委員長をさせていただきました。「子供から大人まで、プロもアマチュアも和も洋も関係なく、多くの市民の皆様がラスト舞台を踏んで42年間の歴史を閉じる公会堂に感謝を込める」このような考えで企画をいたしました。大人から子供まで多くの市民参加で大成功した物と自負していますが、緑と湧水の街小金井にとって、文化芸術も街作りを進めていくための重要な要素であると確信しました。そこで今回の策定委員会へ応募したしだいです。

宮下委員

宮下要です。私は仕事はバイオリンの方をやっておりまして、読売交響楽団に定年退職まで勤めました。それから、東京ユニバーサルハーモニー管弦楽団というところで、コンサートマスターと楽団長を兼任でやらせていただいて、読響はサントリーホールなんかでや

るメジャーなオーケストラですが、私が今やってるユニバーサルハーモニーはマイナーな楽団で、主たる仕事は小学校・中学校・高校を回って、子供たちに生の音楽を聴いてもらって、芸術文化に触れていただく、そして、音楽を自分たちの目の前で汗を流してやっている姿を見ていただく、そういう仕事です。先週と先々週は埼玉の小学校に行き、子供たちに生の演奏を聴いてもらいましたけれども、こういう活動をやっておりますと、子供たちの目の前で演奏することがどんなにインパクトを与えられるか、感動ですよ、本当にもう生き生きとしているように感じるわけです。演奏が進むにつれて、子供たちの目がどんどん輝いていて、最後にはアンコールで『ラデツキー行進曲』をやりますと、もう大変な子供たちの躍動感といいますか、湧き上がるそういうものを毎回毎回感じておりまして、本当にこの仕事をやらせていただいてよかったと思うし、また、こういう仕事こそはこれからは大切な仕事なんだなあと、日々感じておりまして、そこで今日こうして、文化芸術振興条例の策定の会議の場におりますことを、非常に嬉しく思っております。実はおと年、小金井の文化振興条例策定のお願いの、630人ぐらいの署名を私集めまして、そのときは残念な結果に終わったんですけども、今回市長のご決断でいよいよ始まるということで、微力ながら私もがんばらせていただきたいと思いますので、どうかよろしくお願ひします。

4 正副委員長互選

委員長互選。

立候補がなく、内藤委員より田中委員が推薦される。

満場一致で田中委員が委員長に決定。

小柳文化課長に代わって、田中委員長が司会をつとめる。

田中委員長就任挨拶。

副委員長互選。

立候補がなく、内藤委員より星野委員が推薦される。

満場一致で星野委員が副委員長に決定。

星野副委員長就任挨拶。

5 協議

田中委員長

まずは事務局より説明をお願いします。

鈴木係長

本来は東京大学・小林助教授に文化振興条例に関する研修をいただく予定だったが、本日欠席のため次回に延期。

使用する予定だった資料のみ配布する。

東京大学の研究グループがまとめた資料を紹介する。

小金井市の現状、行政側の文化に対する課題意識・認識、小金井市都市計画マスタープラン、小金井市第三次基本構想・後期基本計画。

これらを参考にした上で、小金井市の文化政策に対し、どのような希望を持っているか、

あるいはどんな点に不満を持っているかという話を基本に据えながら、ご協議いただきたい。

田中委員長

今の資料に関しまして何かご質問等はございませんか。

それでは、積極的なご発言をいただいて、小金井市にふさわしい条例、(仮称)小金井市文化芸術振興条例の策定を行っていきたいと考えています。

どうも一回目ということで緊張していて、私も緊張していますが、ここから先はざっくりらんにご発言いただいて、もし不適切なことが出ましたら後で訂正していただければ結構ですから、特に先ほど自己紹介して頂いた中で、皆様方広い意味での芸術活動に携わっている方が多くいらっしゃるようですので、そのあたりからご自分の経験と、それをふまえた上での小金井市の状況に関してお話いただければと思います。

実は私は大学時代オーケストラをやっておりました、トランペットをやっておりました。大学は新潟大学というところですが、そこでは当時〇〇コンサートというのがございまして、宮下さんのお話をお伺いして非常になつかしく思いました。

現在ではもう楽器は、楽器というのはやはりずっと練習を続けていないとできないところがありまして、今はもう楽器関係は、演奏は自分ではやっておられません。

今はもっぱら聴きに出かける方で、オーケストラですとかオペラですとか、そういったものを国の内外問わずに出かけて聴いてます。

一番最近では、4月のはじめにベルンに出かけまして、街のオペラなどを聴きに行きました。そして思いますのは、どの街に行きましても、日本人の演奏家の方が必ずいらっしゃるんですね。そういう方とお知り合いになれて、いろいろとお話もお伺いしました。そういう方はもちろん才能豊かな方ですが、やはりかなり小さいうちからいろいろな意味での音楽に触れる機会をお持ちでして、それは、ご両親が音楽をやっているとか、何か街にそういった雰囲気があるとか、あるいは場合によっては中学校の時の音楽の経験とかですね、そういったものを生かして、そういったものを使いながら、大学等を通じて海外でも活躍なさっている。広い意味では最近、そういったものを小林先生がおっしゃるように「文化資源」という言い方がされるようですが、そういったものは小金井にも非常に豊富なんだろうと思います。

それから、私は小金井に住んでいるんですが、私の住んでいるところは、朝の4時ぐらいになると鶯が鳴くんですね。そういったところが、小金井にはまだある。そういったことは私自身、私の実家は新潟ですから、場合によっては新潟よりも田舎だなということが実はあるんですね。こういった環境を生かしつつ、芸術活動を何とか生かしていけないか、というところなんです。

最初ですから、ここから先は皆様の豊富なご経験を生かして、小金井市の広い意味での芸術活動を盛んにするにはどうしたらいいか、ご意見をいただければと思います。この委員会は、(仮称)小金井市文化芸術振興条例を作っていくということが大きな目的なわけですが、最初ですから条例のことにはあまりこだわらずにですね、条例を作っていく上で日々お感じになっていることとか、ご意見・ご要望などを広くいただければいいかなと思っています。

いかがでしょうか。ここから先は特にどなたが、というようなことはございません。ご自由にご発言いただければと思うのですが。

宮下委員

おと年、先ほど申し上げたように、文化振興条例制定の陳情を提出した際にですね、小金井の多くの文化人にお会いすることができ、ご紹介いただいて、それまではあまりおつきあひもできなくて知らなかったんですけども、実際にお会いして初めて分かったんですけど、小金井には本当に多くの文化人の方、すばらしい方がたくさん住んでらっしゃると分かりまして、これだけすごい文化人がたくさん住んでいる街は三多摩でも小金井が一番だと言われたんですね。それにしても、施設があまりにも寂しいなあと感じたんですけども。皆さん同様におっしゃっていたのは、もっともっと文化的な施設・拠点が小金井にはほしいですね、ということです。市民交流センターの設立が決まったことは本当に嬉しいんですけども、それと同時にそういった施設を市民の方に、それこそ 100 パーセント有効に、文化的に有効に使っていただけるかということを実際に考える必要があります。そして特になんですけども、小金井の 20 年後 30 年後を考えたら、そのときに小金井の街を作っていくのは今のお子さんたちですから、子供さんたちにどう本物の文化に触れていただくか、ということが大事だと思います。その意味で我々の世代が残せるもの、いい意味での財産ですかね、最大限残していきたいと思いますね。

田中委員長

宮下さん、もし今まで市内で音楽などを公演するとしたら、公会堂ぐらいでしょうかね？

宮下委員

そうですね、市内の方と僕が実際にやったのはこないだ「さよなら公会堂」ではじめていい企画を立てて頂いて、それまで知らなかった音楽家の方に声をかけましてですね、本当にその時に、「これが一番最初だね、初めてみんなでこうやって、将来立派なホールができたら、いよいよもう小金井の市民の方たちにも子供たちにも、素晴らしい演奏を聴いていただきたいね」ということがみんなの率直な感想でしたね。小金井にこんな素晴らしい音楽家たちがいるということを知っていただきたいなあと思いました。

田中委員長

高橋さんはさっき自己紹介いただきましたけれども、公会堂の最後の企画で企画委員長をおつとめでしたね。

高橋委員

企画委員長っていうか実行委員長ですね。

田中委員長

公会堂今日私通ってきましたけれども、今後の希望とといいますか、今後はこんなふうになればいいなあというお話を。

高橋委員

市の財政状況からして、東京文化会館的なよいホールを多数建てることを要望してもかなう可能性はないと思います。そこで、資料の中にある近隣市（武蔵野・三鷹・西東京）の施設共同利用ができないものかと考えます。使用料金や使用優先順位等、課題は多数あるかと思いますが、自治体をまたがった人的交流を合わせて実現できたら素晴らしいのではないかと思います。たとえば4市合同の音楽祭とか芸術祭とかです。

私の出身大学は全人教育で有名な玉川大学です。「人間文化のすべてをその人格の中に調和的に形成することにある。その展開にあたっては、(真・善・美・聖・健・富) という6つの価値の創造を目指した教育を追求する」これが全人教育の理想です。

私自身は農学部だったんですが、1年生の必修授業でベートーベンの「第九」を全学部の新入生で歌いました。また、オーケストラ・バレエ・オペラ・絵画鑑賞・歌舞伎・能・相撲・ホテルマナー等々、教養行事として多くの本物と言われる芸術文化を体験しました。課外活動では弓道部に入り体育会+武道の厳しさを体験してきました。このような学生生活を送った影響で、職業は農業ですが、混声合唱団「Vision of Voice」に所属。小金井薪能の理事を務めさせてもらっています。

今、一番強く考えていることは「普段の生活の中に文化や芸術がたえずあるような環境。水と緑と文化芸術の街小金井」こんな感じで言われるようにならないかと思っています。

私は45歳なんですが、サラリーマン、特に男性の方々は文化芸術に触れる機会がないのが現状です。コンサートも芝居も趣味のコーラスも、女性中心です。原因として考えられるのは、(1) 仕事中心で芸術文化を楽しむ心の余裕がない。(2) 気楽にいけるホール等が無い。(3) 何を見るのも高すぎる。

仕事の関係でヨーロッパに行くことがあるのですが、あちらではホールに立ち見席があり低料金で一流の文化芸術を体感することができます。金銭的に苦しい生活をする人たちのも芸術を体感する機会は開かれているのですね。小さな村に男声合唱団があつたり、ロケーションも素晴らしいのですが、即興でオペラっぽい歌を歌う人がいたり。ヨーロッパを訪れた多くの日本人が感じたのではないかと思います、なんだか豊かに暮らしているように思うのですね。たぶん年収は日本のほうが高いと思うのですがね。

高度成長以降我が国が目指さなければならないことは、いかにして心豊かに暮らせるかではないでしょうか？これから先団塊の世代の方々が小金井で過ごす時間が増えることが予想されます。団塊の世代を含め市民が心豊かに過ごすためには、文化芸術は不可欠です。さらに、水と緑の小金井から新たな芸術家が育つ街になってもらいたいと思います。

田中委員長

私は実は2・3年前に、日本のオーケストラをどうやって財政支援するかということで、コンサートにどういったお客さんが、聴衆が来ているかというアンケート調査をしたことがあったんですけども、そうしますと今のご指摘のように、一番来ることが難しい世代が我々の世代と言いますか、とにかく時間がないと。大体芸術活動というのは平日の夜で、これがまた土曜日曜の昼間であれば別なんだろうが、とにかく平日はそれどころではな

いというのが実情です。

今ちょうど芸術家を育てたいというお話がありました、いかがでしょうか？

水野委員

私は多摩美術大学でデザインを専攻していたんですけど、中退してしましまして、それから全然関係ない、文章を書く仕事をしていたりとか、出産後は仕事はせず二十何年きました。子供たちは残念ながら二人とも理系に行ってしまうと、芸術とあまり関係のない分野に行ってしまったんですけども、子育てをしていると、よそのお子さんにしても、居場所のないお子さんが増えているような気がするんですね。

以前、居場所がないこととは関係ないですけども、市役所の閉まった後のガラス張りのドアのところで、ダンスの練習をしている若い人たちをみかけたことがあるんですけども、そういう若い人たちがやっぱりいわゆる「稽古場」が、オーケストラとかそういうことじゃなくても、本当に若い人たちが今やりたいことがある程度きちっとできるという、一生懸命やっている子たちに対しては、支援をできるような場所を提供してあげるとか、そういうことができないかなとすごく感じていますね。やっぱり建物が密集しているところに住んでいますと、うちなんかマンションなんですけど、ピアノの練習にしましても、楽器の練習にしましても、マンションでは8時までしかできない。そうするとご飯が終わってから練習しようとする、結局1時間ぐらいしかできない。建物とかですと、ハコモノはもう予算の関係で限界がありますけれども、そういうことへの支援のために予算がどこからかもう少し捻出できないかなって、いつも思ってるんですね。絵とか美術系っていうのはそんなに場所を取るわけでもないですけども、音楽やダンスにはある程度の場所が、スタジオとか必要ですし。

やっぱり小金井が、本当に住みやすい、子供たちが生き生きとできるような、そういう街になっていてもらいたいなあという思いがすごくあって、青少年健全育成のご専門の方がいらっしゃるんですけども、そういう方がこの中にいらっしゃるということで、やっぱり、子供たちをどう育てていくか。今芸術家でいらっしゃる方はそれなりの活動もやってらっしゃると思いますが、たとえばそれをどう育てていくか。その育てていくことによって、小金井市の評価も高くなるんじゃないか。国立大が2つもあるところは他にないですし、そういう文化面で恵まれているところを活用できないかなあ、と思います。

やっぱり、居場所がない子に居場所を作ってあげたいんだという思いがあります。自分は子育てはもう終わっているんですけども、近所のお子さんとかを見ると、やっぱりやりたいことが見つからないとか、そういう子はいっぱいいますね。

田中委員長

小金井市では、例えば中学校では合唱がすごく盛んですよね。

水野委員

その通りですね。やっぱりすごく力が入ってるので。

田中委員長

合唱と楽器でいうと、楽器はかなり大きな音が出ることがありますので、必ず苦情のことが問題になるわけです。私の家は公園が近いので、公園なんかで楽器をやっている人がいますが、あれもやっぱり人によってはものすごくうるさく感じる人がいて、どれがいいかっていうのは非常に難しい。私のところだと、夏に、8月のはじめごろにいつも夜通しコンサートをやるような催しがあったんですが、あれも割と苦情がすさまじくてですね、そういう意味で、一方にとっては芸術的で素晴らしいんですが、場合によっては大きな音が出ると苦情が来てしまう。なかなか難しいところです。

星野副委員長

青少年健全育成ということですが、先ほど申し上げた通り、僕は音楽、芝居、そのほかもちろんやりますし、書道などをやっています。

それと昨今まで、先ほどもこの話が出ましたから、実は皆さん目にする方もおられると思いますけど、駅のすぐ隣の駐車場がありますけれども、あそこにはちょうど歩道を渡ったところに、看板が一つついております。今ここに、上にですね、子供さんの絵なり作文があって、子供さんの作品は学校以外の関係者以外ではほとんど見られていない。できるだけ市民の方にも見ていただこうと。それで、見ていただくことで、子供さんの励みになる。将来の芸術家ということ、もちろんそういうことも当然なくてはならないということで、実は16年に、それでその下には普通の標語ですね、つけまして、その標語も今うちの方で本町2丁目から5丁目、桜町、そのこの区域についておりますけれども、その下の標語は移しかえているんです。そういうことで、1年にいっぺんぐらい移しかえていこうと。そういうような活動をしまして、子供さんのためにもなる、あるいは市民の、学校に関係ない方にも、学校の生徒さんに対する認識が深まっていけば、犯罪とかいろんなことが今はたくさんありますけれども、そういうことなんかにもメリットとして出てくるのではないかと。子供さんにも励みになって、一つの向学心だとか、そういうものが出てくるだろうと。そうやって近隣の地域でできるだけ子供さんを育てていきたい、ということでそういうことを始めたわけですが、各学校からとても喜ばれまして、いつ、今度は何が貼られるんですかというようなことを度々言われて、とても喜んでいるところで、他に例のない活動になっているようです。

そのようなことでやってまして、それから騒音のことを、いろいろお話が出ましたけれど、小金井公園でよく横笛の練習なんか、やはり大きな音ですから、小金井公園あたりで練習している人が随分多いようですね。やはり場所的な制約、それから僕なんかもそういう、声楽をやっていた、テノールをやっていた関係で分かるんですけども、特に女声、ソプラノでもコロになると、一般の人には何か気狂いかというような風にとられまして、もう学校に怒鳴りこまれるってというようなことも結構あったんですよ。だから、あまり関心のない人にはどっちかって言うと、音楽は音を楽しむっていう人には快い空間を与えてあげるわけなんですけれども、そういう方にとっては騒音ということになるそうなんです。そんなようなことで、たしかに場所等も多くの方に確保してあげることを、ちょっとした地下なんかを利用するとかですね、ちょっとした練習は地下でもできるわけですからね、そういうようなこともこれからいろいろ考えていって、確かな練習場所を提供して、先日もフィギュアでも練習する場所がないというようなことが、オリンピックでもそういうの

が問題ということで、一番の大事なことだと思いますね。

田中委員長

歌なんかの場合、合唱場合はですね、普段の練習はどちらでなさっているのでしょうか？

星野副委員長

合唱なんかはあれじゃないですか、いろいろ学校の教室をお借りしたり、あるいは、いろいろ市の施設の分館ができておりますよね、そういう中でやっているようですね。

宮下委員

うちのかみさんが小金井女声合唱団で、こないだは地下に練習室があつて、そこをお借りしてできたとか。

岩尾委員

この前懇談会の時に、劇団の貸しホールがありまして、地下1階と2階と3階でしたかしら、中を見せてもらって、住宅の真ん中にあるんですが、それをわずか1000円ぐらいで貸し出してありまして、これはもっと広まるといいんじゃないかなと思いました。

高橋委員

練習会場に関しては本当に大変です。市の施設を使いたいのですが、響きのない視聴覚室ではこまるのです。そこで、近隣市の有料スタジオを借りているのが現状です。

岩尾委員

私、たまたま自分の仕事といいますか、杉並区のことですが、演奏家の方がボランティアで来て、本当にうらやましいようなコンサートを、リーズナブルな値段のチケットで、行かれる。そういうものも小金井にあるといいなあと。芸術家の方が大勢いらっしゃるとそういうふうになるといいですね。

宮下委員

「アーティスト・バンク」というシステムがあるんですが、例えば病院などから要請があったときにアーティストが演奏に行く、本当に地元の芸術家が地域に貢献できるというか、そういうシステムをぜひ作ってほしいですね。

岩尾委員

私は音楽鑑賞が好きで、和太鼓やライブとメサイアを聴きに行きます。和太鼓を見たときにとっても感動して、障害のある方と、でかけます。障害のある方も音楽鑑賞ができるといいなあとと思って、そういうお手伝いをしてるんですが、コンサートによってはチケットが、障害がある方とその付き添いの人は半額、そういうのも増えるといいですね。

田中委員長

順番からお待たせしました、内藤さんどうぞ。

内藤委員

順番で回ってきたんですけれども、これ（星野副委員長が紹介した看板）は緑小の入り口にもありましたね？

星野副委員長

そうです。先生がですね、木村先生ですけれども、こういうところにも馴染みなものですから、それであれししたら、ぜひうちの方にもと言われまして、一応区域としてはちょっと違うんですけれども。

内藤委員

これ、お金はどこから来るんですか？

星野副委員長

経費の方は、市から補助金も入りますし、うちの方でも青少年健全育成ということで、多少費用もそういうところから出たりしている。そういうものを利用して、これを全部手作りで作ってるんですよ。委員でね。委員とそれから、これ2年かけて作ったんですけれど、1年目は10基作って2年目は〇基作ってますけど、1年目は中学に行きまして、実はこういうことをやっているけど手伝ってもらえるかということで、朝の朝礼の時にこの活動のことを話しまして、そしたらとうとう一人も来ませんで、でもその先生方が手伝ってくれて、そして2年目にやりましたら、今度は小学生も中学生も来てくれたり、もちろん先生も、各校長先生もいろいろ手伝っていただいた。やはり、皆さんで作ることに意義があると。まずそういうところから、何でも手作りでやっているということで、それだけ皆さんも、いい言葉じゃないんですが、片棒担いでいただく。

内藤委員

ありがとうございます。

私の方はどっちかって言うと、悠友クラブで、老人会の方でございますのでね、あまり大したものはないんですけれども、私は「小金井雑学大学」というものを立ち上げた経験がありまして、ちょっと外れていますけれども、まあ来られる方は大体高齢者の方が多い。で、現在お付き合いをしているのは高齢者ということで。それでも、カラオケの発表会とか高齢者演芸会とか、会報の作成とかですね、会員間でいろんなサークルをやってるんですね、俳句だとか短歌とか、歴史探訪だとか舞踊とか、いろいろやっております。いろいろ行事に参画しておりますけれども。この高齢者というのは、意外とみんな高齢者ということで流してしまうような面もあるんですけれども、高齢者の持っているいいところといいますかね、かなりいいキャリアを持っている人がいるんです、中には。昔学校の先生をやっていて今は歴史を教えるとか、俳句を教えるとか、書道を教えるとか、いい方々がいるんです。ですからそういう高齢者のいいところを発掘をしてですね、次世代にスムーズにバトンタッチができるような、そういう場作りをする必要がある。

そう思うのが一つと、実は私町会の方をやっておりまして、もう 17 年ぐらいやっておりますけれども、大体町会の会合を月 1 回やっておりまして、なかなか公民館などの場所が取れないのが一つと、使っている中で非常に施設が古くなってきて、活用しにくいといひますかね、部屋の間取りの関係もありますし、照明の問題もありますし、畳の部屋が多いものですから、もっと椅子にしてもらえないかとか。これは一つの例ですけれども、みどりセンターの場合は作った時はよかったと思うんですけど、吹き抜けが非常に無駄なんです。ああいうところの見直しなんかも必要かなと。そしたらもっと数多くの方々が使えて、いい拠点作りになるんじゃないか。そんなこともちょっと考えておりますけれども。

田中委員長

一通りお話し頂きまして、ありがとうございました。

(仮称) 小金井市文化振興条例策定に向けてですね、まだ白紙の状態なんですけど、こういう項目があるといいなとかですね、もちろんそれがどこまで反映できるか分かりませんが、今日は気楽なので夢を語れる場ですから、条例にどんなものがほしいかとかですね、例えば先ほどお話しに上がりましたアーティストバンクですけれども…

宮下委員

山梨ではじまったものです。学識者経験者、芸術関係者とアーティストが協力して、非常に皆さん喜んでおやりになった。皆さん、「文化的な人的財産」ということをおっしゃるんですね。そういう意味では、小金井には人的財産があふれるほどありますので、そういう人は、私がお話しした限りでも、市民のために何か役立つことをしたいと、皆さん思っているようなんですよ。そういう人たちがたくさんいらっしゃるの、そういう方たちの財産をどんどん開放していきたいと、子供たちにもそういう財産を活用してもらいたいなあと思ひまして、そういう場所とシステムを作ってほしいと思ひます。

先ほど高橋さんがおっしゃったように、練習場所というのは非常に大事です。もちろん一般のホールでもできますけれども、そこを使って何かやろうということ、例えばピアノの先生でしたら年に 1 度の発表会、まあピアノの先生は何十人もいらっしゃいますけど、そういうことの使い方、こういう練習の場所というのは、毎週毎週使うわけです。そういう意味で、リハーサル・ルームは非常にたくさん必要ですね。そういうことをちゃんと考えていけば、新しいホールができて、100 パーセント活用してもらえないかと思ひますね。

田中委員長

建物に対する要求が多いですね。

宮下委員

そうですね。ちゃんと芸術活動ができるホールで、しかも近隣に迷惑をかけないという。

田中委員長

ソフトの面ではいかがでしょうか？

たとえば先ほど、岩尾さんは、資料では「障害者の暮らしを支援する会」とありますが、今 NPO 法人になって、例えば障害者がどう芸術を享受しつくっていくか、ということに関してはどうなのでしょう？小金井市で障害者の方が芸術を鑑賞するという場合には…

岩尾委員

そうですね、個人的には皆さん熱心な方がいらっしゃいますね。インターネットでコンサートのスケジュールを調べたりしてらっしゃいますね。

田中委員長

岩尾さんは、生涯者の方と芸術の交流とはということについては、どのようになさっていたんですか。

岩尾委員

高齢になるともう親御さんがいらっしゃらないので、お母さんに連れられていつもお芝居を観に行ってたっていうことができないので、そのお手伝いをしたりとかですね。

コンサートにも、休日のラッシュの中を通過して、それでもとても喜んでいただきましたね。

小金井は、やっぱり場所がないって言うんですか、おけいこの発表会だと、近隣の芸術劇場のホールを使ったり、そういうところの方が使いやすい感じがしますね。

田中委員長

建物の話が尽きないようですが…

高橋委員

学校施設は非常に魅力的ですね。ただ今は防犯上の問題があり使用できないのでしょうかね。

もしも借りられるのならば、体育館や音楽教室が魅力的ですね。あと、合宿ができるところを探しています。今までは都の青年の家等を使わせていただいたのですが、合理化で武蔵野青年の家は閉鎖されました。小金井には清里山荘がありますよね。ぜひピアノを置いていただき音楽の合宿ができる環境整備をお願いいたします。

田中委員長

では、二順目ということでお話をおうかがいしたいと思います。

水野さんいかがでしょうか。

水野委員

南口が開発されると、市民のためのスペースができるといい、みたいな案があったと思いますが、そこはやっぱり若い人たちにも使わせてあげることができないかな、と思って、子供たちがまっすぐに育ってくれれば、小金井はもっと住みやすい街になるし、子供にはお金も何もないですし、大人のアーティストと違ってホールを借りるわけにもいかないですから、どういう条文になるのか分からないですけれども、子供のための一文が入れられてほしいと思います。やっぱり子供の意見をきくことって、そんなにはないかなって。

荒れている子が増えているし、学校では不登校が問題になっているわけですよね。そういう子たちに、文化とか芸術とかそういうものに触れさせて、まっすぐにそだてていくことが可能なんじゃないかと。文化芸術にはそれだけの力があると思いますし、音楽だったり楽器だったり、ダンスとか芝居とかそういう文化芸術が、個人でも市の施設を利用できるようなシステムが、グループじゃなくてもできるっていうか、何かそういうことができな
いかなって。あまりにも漠然としているとは思いますがけれども…

田中委員長

現状では、市の施設は個人では利用できないと。

水野委員

そうですね、市の施設っていうか、ほとんどの施設っていうのはやっぱり、そんなに設備がしっかりしているわけでもないですし、結構カラオケやってる人たちなんかでも、音が外に漏れてるっていう。今の設備やシステムだと若い人には使いづらいんですよ。さっきもお話出しましたが、和室とか、和室じゃダンスの練習できないですし。

田中委員長

そうすると、一方はダンスをやりたい、一方は音を出すということで、これまでは同じ建物の中で全然違うことをやっていたような気がするんですけど。

岩尾委員

さきほど学校を使いたいというお話が出ましたが、学校のあき教室を使って、練習や演奏活動をできないでしょうか。

田中委員長

私は小金井市に住んでいますが、どうしても教育学部ということで、近隣のいろいろな学校を回っているんですが、どういうわけか、小金井市だけが当たらない。というわけで小金井に来たことがないんですが、学校の現場で一番問題になっているのは、今安全にものすごく気を使ってるんですね。こんなに気を使うのかな、っていうぐらい、気を使うんですよ。つまり、もし何かあったらっていうことを第一に考える。ですから、もう先回り先回りして、場合によっては子供たちが活動を不自由するぐらいまで、規制をかけてしまうんですよ。一つ例を挙げますと、ある学校でそこは小金井にも近いところですが、グラウンドに立派な木があるんですよ。私なんかは子供たちが自由に木登りして遊べるからいいって言うと、校長先生が「木登り禁止です」と。どうしてですかと聞くと、「もし落ちた時に責任問われます」と。その場合のために、みんな禁止しちゃうんですよ。

水野委員

雪合戦も同じです。今雪合戦しちゃいけないんですよ。

田中委員長

そうなんですか。

先ほどお話が出ました南口広場の話もそうなんですけど、南口広場がオープンになればそれだけ、いろいろ問題も出てくるわけです。

水野委員

学校とかでさえね、うるさいって苦情が来るぐらいだから。

田中委員長

文化芸術もやってる本人にとっては楽しい、やりたいけれども、そうでない人にとっては騒音に過ぎないという面もありまして、難しい面があります。同じ芸術でも、一方はダンスをやって、一方は楽器をやると、お互いに音が気になりますよね。そういうかなり複雑な問題があるんじゃないかと。

今日はだいたい7時までお話をうかがって参りましたが、一回目はこういう感じで気楽にご意見をいただいたということで、これを深められるといいかなと思っています。

高橋委員

回数が少ない会議のようですので、効率的に進めるために近隣市で文化条例等が策定されているならば参考にしたいので資料を集めていただけませんか？また、今日の資料の中にあるのですが、「文化の範囲」をどう定義するのか。初期の間は前衛的な物は嫌悪感を覚えますよね。若者達を取り込む上でも、どこまでの範囲を今回の条例で取り扱うのか、非常に重要な問題だと思いますので、慎重審議が必要ではないかと思います。

星野副委員長

ピカソでもそうなんですけど、あんな前衛的な絵を描く前は、元はもうきちっとしたあれを、ちゃんと勉強してるんですね。それを基に、はじめてあれを描いてるんですよ。ですから、今ただあれを描いてる人が今おりますけど、それは別に絵じゃなくても、スキーをやるでもですね、スキーをちゃんと滑り方から身につけませんとね、今ゲレンデに行くと、雪じゃないような、氷のようなところで滑っていると。身につけなくて、新雪にでもあたったら途端に怪我をする。ですから基本というのは大事だということ、これは何の世界でも同じことで、それはこれから芸術文化でもですね、十分に考えていった方がよろしいと思うんですけれども。

田中委員長

芸術の範囲を決めようとか、芸術とは何かを語るとなると、多分4・5回では終わらないんじゃないかと。そういう時間の制約がある中で、私としてもいいものをつくっていきたい、こういう機会を生かしていきたいと思います。

それでは、どうもありがとうございました。皆様方の積極的なご発言を頂きまして、小金井市の文化のために、私も委員長としてささやかながら貢献して参りたいと思います。どうかご協力をよろしくお願いいたします。

それでは、今後の予定について事務局から説明をお願いいたします。

鈴木係長

今後の予定についての提案。

策定委員会が全5回。

それに並行する形で、庁内検討会議を開く。

市民の声を吸収するために、ワークショップ・ヒアリング・シンポジウム・パブリックコメントの4段階を予定している。

そして、2月の市議会に上程する運びとなる。

次回2回目に研修。高橋議員から指摘のあった文化の範囲についても、小林助教授からお話を頂ければと思う。

次回から6時開始としたい。

3回目を7月6日に開催。

4回目の日にワークショップを行う。どの時間帯なら一番人が集まるか、次回討議する。

田中委員長

この日程に関して何か質問は？

高橋委員

議事録は次回の策定委員会前にいただけますでしょうか？

鈴木係長

今日の内容をいったん文字に起こして、なるべく速やかに皆さんの元へ送付したい。そして、議事録を情報公開コーナーに置いて一般市民に公開する予定。

なお、近隣地域の状況に関しては、多摩地域で文化振興条例を持っているのは立川市のみ。

しかも「まちづくり条例」になっており芸術に特化したものではない。西東京市は策定中。

宮下委員

インターネットで検索すれば資料は豊富に出てくる。

田中委員長

予定に関してはこの通りでよろしいか。

事務局から他に連絡事項は？

鈴木係長

口座振り替え依頼書は次回ご提出頂きたい。

田中委員長

本日はどうもありがとうございました。これにて終了いたします。